

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

SER no.093; Cover, Title page, Preface, colophon etc.

メタデータ	言語: fra 出版者: 公開日: 2010-07-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/4173

SER93 *Une version rgyalrong de l' épopée de Gesar* Gyarong Studies 1
Guillaume Jacques and Chen Zhen
Yasuhiko Nagano (ed.)

本書は科学研究費補助金基盤研究 A「ギャロン系諸言語の緊急国際共同調査研究」(2009-2013)の成果の一部で、中国四川省ギャロン地方にギャロン語で伝承されている「ケサル物語」の記述解析である。

従前科研基盤研究 S でチベット文化域における言語基層を探る研究を行い、ボン教文化ならびにギャロン言語文化を解明することが必須であることがあらためて認識された。これをさらに追究するには、基礎語彙や統語法の精緻な記述と平行して、口承文学の記述を積み重ねることも等しく重要である。

このため、内外の研究者を科研基盤 A によって現地に派遣して調査研究を行っているが、ギャロンには存在しないと考えられてきたケサル物語がギャロン北部に伝承されていることが分かった。

ケサル物語とは、チベット・モンゴルを中心とする内陸アジアに広く分布する口承伝承で、「ケサル」という名称はジュリアス・シーザーに由来をもつが、内容的にはチベット文化域の守護神にかかるさまざまなローカルな伝承を集大成したものである。

基本的にチベット語で伝承され、モチーフも仏教説話と伝統的な山の神信仰が圧倒的であるが、ギャロン北部のボン教コミュニティに伝えられるものはボン教の伝承とは余り関係がなく、専ら古いフォークロアに英雄としてのケサルが付加された形式である。Pre-Tibet/Gyarong のフォークロアを再構成する重要な資料と言える。

ギャロンの北部方言は一般により改新的な形態統辞法と保守的な音韻体系を保ち、ギャロン祖語を再構するために不可欠と考えられている。特に口承伝承に残る特異な語彙形式は貴重なデータである。

本書の出版により、消滅の危機に瀕しているギャロン語北部方言の精密な記述が残せると同時に、チベットないしギャロンのフォークロアの古い層を代表するケサル物語を保存することが期待できる。